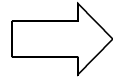


平成28年度 授業改善全体計画

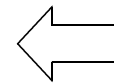
64 練馬区立富士見台小学校

＜関係法令等＞
 ・日本国憲法
 ・教育基本法
 ・学習指導要領 等



＜学校教育目標＞
 社会の変化に対応し、自らの力で未来を切り拓く「生きる力」を養い、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童を育成する。そのために、人権尊重の精神を基調とし、地域に根ざした教育を推進する。

○かしこく ○やさしく ○たくましく



＜願い＞
 ・児童の実態や伸びたいという願い
 ・保護者の伸ばしたいという願い
 ・地域社会の支えたいという願い
 ・PTA、学校評議委員会からの意見等

各教科等の指導の重点

＜国語＞自分の考えを分かりやすく、適切な漢字を用い表現する力を伸ばすため、個に応じた指導の充実を図る。伝統的な言語文化や古典を取り上げ親しむようにし、継承して新たな創造へとつなげるようにする。

＜社会＞自分たちが住んでいる地域の地理的位置・都道府県の名称と位置に興味をもたせる。資料を基に調べ考えたことをまとめ、分かったこと、考えたことを表現できるようにする。

＜算数＞児童の実態に合わせた習熟度別指導を充実させ、基礎・基本を身に付けるさせるための工夫や、主体的に学ぶための工夫をした授業展開をすることで、基礎・基本を身に付け、進んで問題解決に取り組む姿勢を育てる。

＜理科＞観察実験の技能の指導を通して問題解決の能力や自然を愛する心情を育て、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を育てる。

＜生活＞具体的な活動や体験、他との関わり、自分自身や自分の生活、生活上必要な習慣や技能、自立への基礎を育てる。

＜音楽＞音楽的で豊かな感受や表現の基礎的な能力を育て、その定着と個に応じた指導の充実を図る。

＜図画工作＞感性を働かせ、造形的な創作活動の基礎を培い豊かな情操を養う。

＜家庭＞日常に必要な基礎的・基本的な知識・技能の定着と個に応じた指導の充実を図る。

＜体育＞新体力テストの結果を生かし、体づくり運動で体力の向上を図る。

＜外国語活動＞ゲームなどを取り入れ、楽しく外国語に親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。

＜総合的な学習の時間＞

体験：体験学習にすすんで参加させ、学習や生活に生かさせる。
 解決：学習計画を立て、見直しをもって調べさせる。
 発信：効果的にまとめ、表現し伝えさせる。
 追究：活動を通し高まった関心をさらに探究させる。

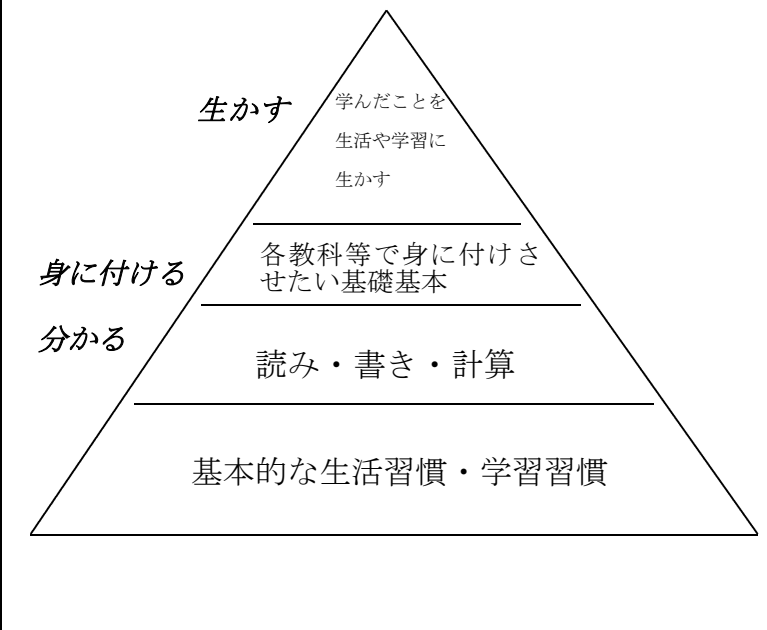
学校経営方針（学力に関して）
 「子供が、豊かな心を持ち自己実現を図れる学校」

（学習指導の目標）
 全ての学習にわたって「子供が知的好奇心を持ち、知る喜び、学ぶ意欲をもてること」を学習指導の目標にして、基礎・基本の確実な定着を図る。

（学習指導の方針）
 体験的な学習、問題解決的な学習を重視し、考える力、表現する力の育成のため、児童の立場に立った学習指導を創意工夫する。

○各教科の指導計画と評価規準に基づいた評価計画の実施により、一人一人に基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、確かな学力の向上を図る。

○担任と加配教員による習熟度別指導、学力向上支援講師による TT 指導を進め、一人一人の児童の個性と能力に応じた指導の充実を努める。



学力調査
 学力調査の結果を分析し、その分析結果を基に、今後の指導に生かしていくようにする。

道徳教育の指導の重点
 ・道徳の時間を中核とし、体験活動やボランティア活動なども取り入れながら、内面に根ざした道徳的実践力を高める。
 ・教育活動全体を通して、「わたしたちの道徳」「東京都道徳教育教材集」を活用し、豊かな関わり合いの中で、自他を思いやる豊かな心や、生命を大切にすることを育てる。

特別活動の指導の重点
 ・児童一人一人の創意を大切にし、望ましい集団活動の充実を図る。
 ・集団の一員としての役割を自覚し、協力してよりよい生活を築こうとする実践的な態度を育てる。

生活指導の指導の重点
 ・児童一人一人の理解に努め、集団で望ましい生活習慣を養い、自主的で活力のある元気な子供を育てる。
 ・富士見台小学校のきまりの徹底を図り基本的な行動様式を身に付け、自らすすんで実行する子供を育てる。

キャリア教育の指導の重点
 ・児童一人一人の能力や適性を正しく把握し自己の将来に希望や生きがいをもてるように指導・助言する。
 ・各教科・道徳・総合的な学習の時間との関連を図り、自己を振り返らせながら社会の一員として自らのよさを生かした生き方を考えさせる。



本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫・教育環境の整備	校内研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	幼保小・小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> 体験的・問題解決的な学習の重視。 算数における担任と学力向上支援講師との習熟度別指導（全学年）による授業のさらなる充実。 発展的な学習、補充的な学習の開発。 課題改善カリキュラムの活用による授業改善。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科での学習と関連付けた学校農園やビオトープ、地域の施設等の有効活用。 異学年交流の充実。 生活習慣や運動習慣の見直しと体育的な活動や体育授業の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究では、「一人一人が基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ授業づくり」を研究テーマに、年間講師の指導を受けながらの指導法の工夫。 若手教員研修プログラムを作成し、教務主任、研究主任を中心にした研修を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の自己評価（ポートフォリオなどの導入）や相互評価を積極的に取り入れ、児童の学習意欲の向上および授業改善に活用。 学校公開の保護者の感想や学校評議委員会の意見などの外部評価を授業改善に活用。 	<ul style="list-style-type: none"> 年5回の学校公開を実施。 道徳授業地区公開講座の実施。 地域の人材を外部講師として活用。 	<ul style="list-style-type: none"> 同地区の小学校、中学校と連携を図り、授業参観・研究会参加を計画、実施。 中学校の英語科教員による英語の授業を6年生に実施。 地区中学校への入学予定者の学習面、生活面のヒアリングの実施。 地区中学校吹奏楽部による公演の実施。 地域の幼稚園、保育園と連携を図り、1・2年生と共に授業を実施。